

蔵骨器（灰釉陶器短頸四耳壺）

ぞうこつき（かいゆうとうきたんけいしじこ）

名称： 蔵骨器（灰釉陶器短頸四耳壺）
種別： 有形文化財（考古資料）
員数： 2点（蓋（土師器椀高台部転用）を含む）
法量： 壺 口径 7.7cm、器高 16.4cm、高台径 14.5cm
蓋 高台径 8.5cm、器高 2.0cm
所在地： 太宰府市国分四丁目 9 番 1 号 太宰府市文化ふれあい館
所有者： 太宰府市
所有者住所： 太宰府市観世音寺一丁目 1 番 1 号

概要

太宰府市坂本二丁目内、小字松倉の低丘陵地での宅地造成に伴う発掘調査（大宰府条坊跡第 190 次調査）で出土した灰釉陶器。器種は短頸四耳壺。

内部から炭と人骨とみられる骨片が少量確認されたほか、蓋に使われていたと考えられる土師器椀の底部が出土しているため、蔵骨器として使用したものとみられる。

灰釉陶器短頸四耳壺は、口径 7.7cm、器高 16.4cm、高台径 14.5cm。耳と口縁部の一部でごく僅かに欠損がみられるがほぼ完形である。胎土は 0.4mm 以下の砂粒を少量含み、やや黄色味を帯びた灰色を呈し、平安時代に施釉陶器を生産した東海地方の窯である猿投窯産の特徴を示す。外面は肩部から口縁部そして内面にかけては回転ナデ、胴部及び底部外面は回転ヘラケズリ、高台は貼り付けに伴う回転ヨコナデなどの調整が施される。口縁部直下の外面には口縁部を絞り込み成形する際についたとみられるヒビ割れ痕跡が巡る。体部の傾斜や肩部が張ることが器形の特徴である。特に他の灰釉陶器短頸壺と比較すると器高が低いことに大きな特徴があり、器形的には 10 世紀代の長頸壺に類似する。施釉は厚い部分では黄色味の強い灰緑色で、薄い部分では黄灰色を呈する。外面全体に灰釉をハケで塗っており、口縁部外面から肩部にかけては釉が厚く、胴部以下は薄く釉が垂れ、ムラがある。内面底部には口縁部から落ちた自然釉が掛かる。釉薬の色やかかり具合も猿投窯産の特徴を示す。底部外面には粘土が付着する。これは焼成時の窯具の可能性も考えられる。肩部には 4ヶ所に耳を貼付する。耳には 0.3cm 前後の円孔が穿たれている。円孔は貫通しない場所もあり、退化して痕跡だけが残るいわゆるルジメンツ的要素を持つ。こういった形状の耳をもつ事例は、灰釉陶器ではほとんど知られていない。

土師器椀は、在地産で高台径 8.5cm。体部が打ち欠かれており底部のみ残存。胎土は精製され、色調は黄灰色を呈する。高台が外側に張り出すこと、高台径が縮小していないこと、胎土が精良であることから 9 世紀末～10 世紀中葉（大宰府編年Ⅷ期からⅨ期）に相当する。

本資料は表土を重機で掘削している際に出土したため、厳密な出土位置が明らかでない。ここは、現在は太宰府条坊外と想定されているが、周辺には同時期の遺跡として、西に松倉瓦窯、北

東に坂本瓦窯など、大宰府政庁Ⅲ期の再建に伴う 10 世紀前半～中葉操業の大宰府官営工房がある。蔵骨器出土地から北東に位置する小正府遺跡の丘陵上では単独の奈良時代の墓の可能性のある遺構（土器埋納、火葬墓）が確認でき、また 12 世紀代にも瓦窯の閉業後に火葬墓が営まれ、13 世紀段階では丘陵斜面の集石遺構とともに散骨した痕跡が確認できる。

こうした周辺状況から、以下の変遷が想定される。

- ①8 世紀～10 世紀代の丘陵部での単独墓
- ②10 世紀中葉～11 世紀代の官営工房としての瓦生産
- ③12～13 世紀代における丘陵部を利用した墓域の展開

本資料は①②に該当し、大宰府政庁Ⅲ期の再建事業に伴い土地利用が活発化する以前に、単基もしくは極少数の墓が丘陵上に作られたと想定される。

遺構・遺物ともに類例が極めて少なく時期比定が難しいものの、壺は特徴的な器形であり、灰釉陶器の器形系譜と年代観により平安時代前半（9～10 世紀）の所産と推定される。また蓋とみられる土師器椀は 9 世紀末から 10 世紀中葉と推定でき、周辺の土地利用の状況とあわせて、蔵骨器としては遅くとも 10 世紀中葉までには埋葬されたものと考えられる。壺が仮に特注品として生産されたものであれば伝世は考えづらく、10 世紀前半～中葉の製品と想定される。

指定の理由

灰釉陶器の蔵骨器は大宰府市を含む北部九州において出土例が極めて少なく貴重である。特に本例は、灰釉陶器の中心的生産地である猿投窯産や東海地域の他の窯跡出土資料に類例がないため、特注品として製作された可能性がある。

以上のことから、灰釉陶器の器の形や用途が希少であり、大宰府における 10 世紀の墓葬をうかがえる数少ない考古資料であるため、資料的価値が高く重要である。

【参考文献】

大宰府市教育委員会 2015 『大宰府条坊跡 46—坂本・五条・朱雀地区の調査』 大宰府市の文化財第 127 集

山本 信夫 1999 「大宰府出土施釉陶器の編年について—九州の緑釉・灰釉陶器の基礎資料集成—」 『国立歴史民俗博物館研究報告』 82 号 国立歴史民俗博物館

井上 信正 2018 「大宰府の葬地と都市」 『東アジアの古代都城と葬地・墓葬』 東アジア比較都城史研究会



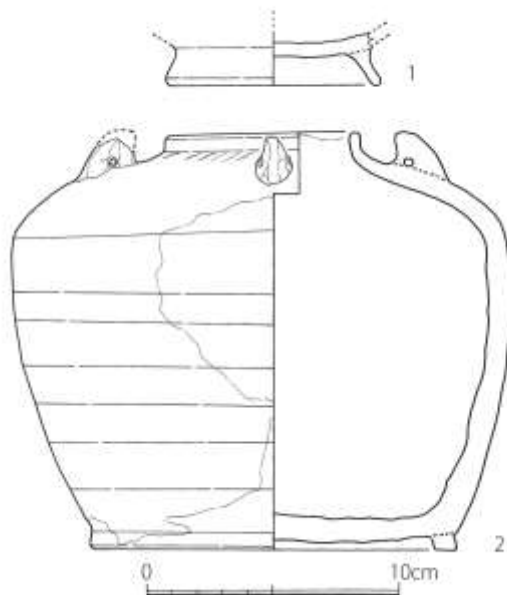
左：灰釉陶器 短頸四耳壺 右：蓋（土師器高台部転用）



四耳の取り付け状態
（上から）

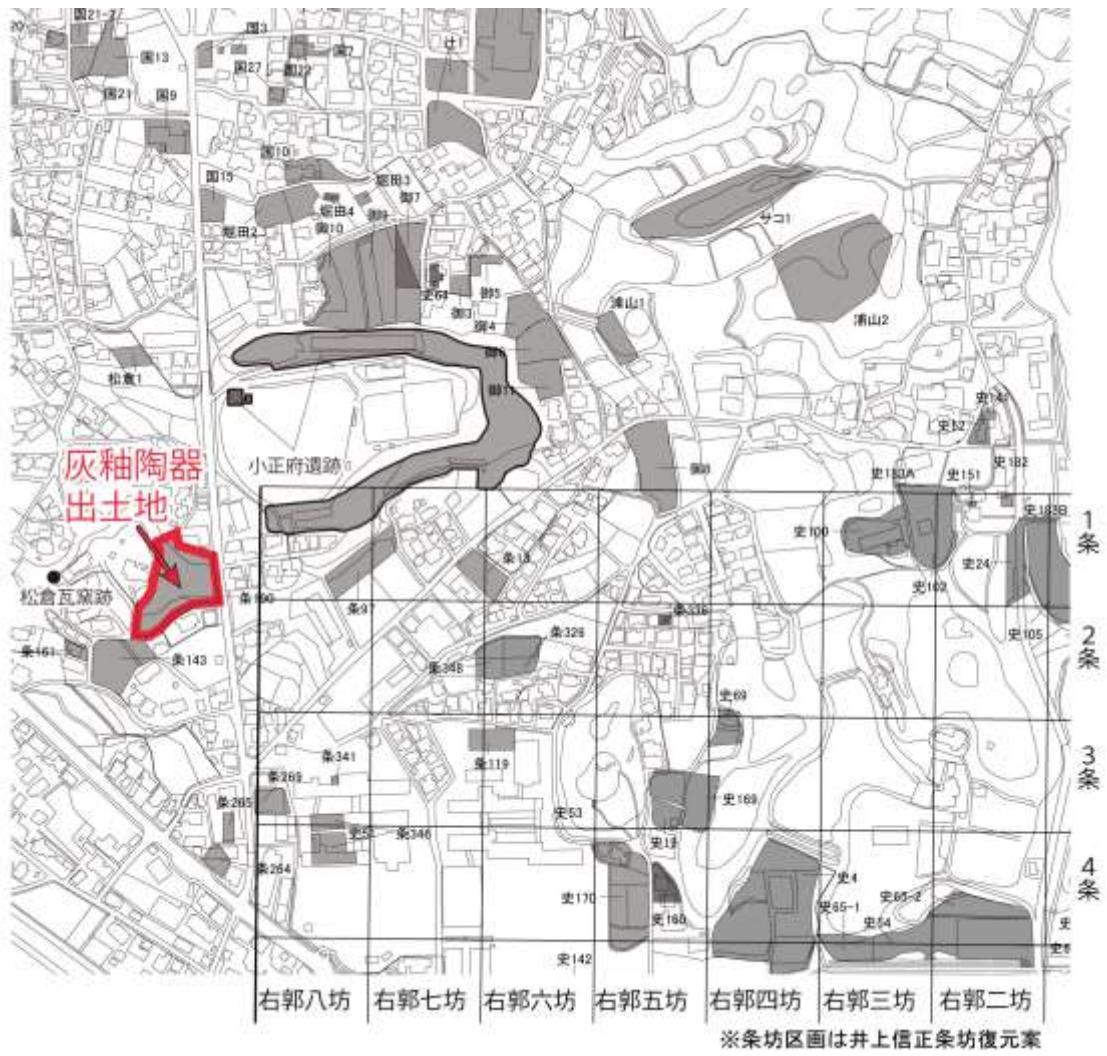


底面



遺物実測図

- 1.蓋（土師器高台部転用）
- 2.灰釉陶器 短頸四耳壺



周辺状況図（縮尺不定）